

東京家政大学健康科学部看護学科 カリキュラムツリー(平成30年度～令和3年度入学生)

【育成する人材】
科学的根拠に裏づけされた知識・技術と生命の尊厳を守る態度を有し、あらゆる年代における人々の健康の保持増進と生活の質の維持に貢献できる能力を有する。

【育成する人材像】
看護師：人々の多種多様なニーズに対応できる看護の専門知識を有し質の高い支援ができる看護実践者である。
保健師：地区活動、健康教育、保健指導等の看護活動を通して、地域社会で生活する人々の疾病予防、健康課題・問題を組織的に解決・支援できる公衆衛生看護の実践者である。
助産師：妊娠・出産・産褥期にある女性と胎児・新生児が自然で安全に経過する助産ケアが提供できる看護実践者。また周産期医療システムにおける助産業務の遂行者である。

アドミッションポリシー	カリキュラムポリシー	1年次 看護職者としての意識を養う		2年次 疾病と看護方法の基礎知識を学ぶ		3年次 看護実践を学ぶ		4年次 看護の統合と看護実践力の向上を図る		ディプロマポリシー	就職先																															
		前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期																																	
<p>1. 看護に興味・関心のある人</p> <p>2. 他者の話をしっかり聴き、理解できる人</p> <p>3. 自分の考えを表現できる人</p> <p>4. 問題意識を持ち、解決に向け主体的に取り組むことができる人</p> <p>5. 健康的な生活習慣を心がけている人</p>	<p>1. 豊かな教養、コミュニケーション能力の育成、人間をさまざまな視点から理解し、科学的にそして看護の対象者の自由と権利を尊重した看護が実践できる力を身につけるために、「人間と社会・文化」「人間と自然」「人間と情報」「人間と言語」に区分した基礎教養科目を配置する。</p> <p>2. 看護学領域の学習の基盤となることを踏まえ、科学的根拠に裏づけされた看護実践能力が身につくように、「身体の構造」「精神の構造」「社会の構造」で構成した専門基礎科目を配置する。</p> <p>3. 保健医療福祉チームのメンバーとして、連携・協働を図りながら、地域住民の健康の保持増進及び障害の予防ができるよう、『健康教育』『保健医療福祉行政論』を2年次に配置する。</p> <p>4. 学内で学修した看護の実践に必要な知識・技術・態度を統合する場として、さらに対象及び対象を取り巻くさまざまな人々と良好な関係を築きながら、対象者が望む生き方ができるように、創工夫した看護援助を提供できるようにする力を培う場として、『臨床実習』を配置する。</p> <p>5. “看護とは”を問い、自己の看護観を明確にすることや、質の高い看護を提供するためにどうあるべきかなど、卒業に向けビジョンが広がることをねらいとし、看護実践力の修得を図るために、4年次に『統合実習』『看護研究』『看護管理』等を配置する。また、諸外国での保健医療活動等、看護が求められる様々な場を学修するために、『国際看護』等を配置する。</p>	<p>基礎教養科目</p> <p>人間と社会・文化</p> <p>人間と自然</p> <p>人間と情報</p> <p>人間と言語</p> <p>専門基礎科目</p> <p>身体の構造</p> <p>精神の構造</p> <p>社会の構造</p> <p>専門教育科目</p> <p>看護の基礎</p> <p>母性看護学</p> <p>小児看護学</p> <p>成人看護学</p> <p>老年看護学</p> <p>在宅看護学</p> <p>精神看護学</p> <p>看護の統合と実践</p> <p>保健師課程</p> <p>公衆衛生看護専門学系</p> <p>助産師課程</p> <p>助産専門学系</p>	生命科学 人間関係論 コミュニケーション論 心理学 発達心理学	日本国憲法 多文化理解 心理学 発達心理学	家族社会学	環境科学 神経科学 生理学概論 化学概論	遺伝学	基礎統計・情報処理 ヒューマンロボテクス 日本語表現	コンピューターと医療	医療経済学 国際関係論 体育(講義・実技)	国際関係論	<p>【5つの能力】</p> <p>①生命の尊厳と人格を尊重した看護の実践力</p> <p>②健康の保持増進と生活の質を維持する看護の実践力</p> <p>③保健医療福祉において多職種間および地域と協働・連携できる能力</p> <p>④看護の探究心と研究的姿勢</p> <p>⑤国際的視野から行動する力</p> <p>知識・技能</p> <p>1. 人間理解を基盤として、健康に関与する看護の基本が身についている。</p> <p>2. 援助的人間関係を基盤に人の誕生から老い(死)までの過程における健康課題に対して取組むことができる。</p> <p>3. 健康の保持増進、疾病予防、健康障害からの回復に向けた看護が、専門的知識・技術を用いて、科学的根拠に基づき実施できる。</p> <p>思考力・判断力・表現力</p> <p>4. 看護の対象である人を身体的・精神的・社会的な側面を統合して理解する基礎力が身についている。</p> <p>5. 人の自由と権利を尊重し、いかなる場合でも看護職者としての役割を倫理的に判断し、行動できる。</p> <p>6. “看護”を意識的に問い続け、自ら発見した看護に関する課題に対して研究的に取り組み、看護の現象を科学的に追求する姿勢を継続できる。</p> <p>主体性・多様性・協同性</p> <p>7. 看護の対象である人思いや人間性をもち、社会と積極的に関わっていき高いコミュニケーション能力を身につけている。</p> <p>8. 質の高い医療の提供に向けて地域等の様々な資源を活用するとともに、患者・家族を取り巻く多職種間を調整する役割を果たすことができる基礎力をもっている。</p> <p>9. 諸外国の医療・看護の課題、看護事情に関心をもち、専門職者として国内外で活躍するための基礎力をもっている。</p>	英語A	英語B	医療英会話	看護・医学英語	中国語	形骸機能学 疾病治療論Ⅰ 疾病治療論Ⅱ	リハビリテーション概論 免疫学 薬理学 免疫学 疾病治療論Ⅲ 疾病治療論Ⅳ	生涯発達論 精神発達論 疾病治療論Ⅴ 臨床心理学	カウンセリング	保健統計	疫学 地域保健 保健医療福祉行政論Ⅱ	産業保健 学校保健	看護学概論 看護援助論 看護の基本技術Ⅰ	看護の基本技術Ⅱ ヘルスアセスメントの技術 基礎看護の実践Ⅰ	看護の基本技術Ⅲ 看護過程の技術	基礎看護の実践Ⅱ	看護論理 看護研究Ⅰ	母性看護の実践	小児看護の実践	成人看護の実践Ⅰ,成人看護の実践Ⅱ	老年看護の実践Ⅰ,老年看護の実践Ⅱ	在宅看護の実践	精神看護の実践	災害看護Ⅱ 看護管理 看護教育 看護理論 国際看護 看護研究Ⅱ	統合実習	公衆衛生看護学概論	公衆衛生看護学概論Ⅰ 公衆衛生看護学管理論 公衆衛生看護学実習Ⅰ,公衆衛生看護学実習Ⅱ	助産学概論	周産期医学 助産診断・技術学の基礎 助産管理 助産診断・技術学Ⅰ 助産診断・技術学Ⅱ 助産診断・技術学Ⅲ 助産診断・技術学Ⅳ 助産学実習Ⅰ,助産学実習Ⅱ,助産学実習Ⅲ	国立病院 大学附属病院 赤十字病院 民間病院 医療センター 周産期母子センター 訪問看護ステーション 地域包括支援センター 市町村 都道府県 学校 企業の健康管理部門 健康保険組合 など